

学生の主体性向上を目指して ～全学的な学生支援システムを通して～

F 班 3 グループ 黄金ファラオと黒モアイ

1. 現状の問題点と課題

昨今、官庁や各種団体、マスコミをはじめとした様々な団体や媒体から、大学が置かれている状況が発信されている。特に「大学の使命が達成されていない傾向がある」と「社会において学士力や社会人基礎力が求められている」ことは頻りに論じられるテーマである。

また、文部科学省や中央教育審議会のガイドラインや答申が示す通り、学士力や社会人基礎力は大学卒業社会人に必須の能力であり、大学全入時代に入った現在では、すべての大学に求められる教育内容である。

しかし、実際は「社会が求める人材」と「大学が輩出する人材」の乖離が生じている。これに対し本グループでは、学生および教職員に下記のような問題点があるためであると仮定した。

- 学生の就学意識の低下
何のために大学に通っているのかという目的意識が希薄である。目的や将来イメージがないため何をすればいいのかわからない。自分が置かれている状況を認識できておらず、現状のままであることへの危機感がない。
- 学生の学力の低下
入試難易度の緩和。学力選抜以外の入試形態の濫用。就学意識が希薄であるため入学後に勉強しない。
- 教職員に大学のビジョンが浸透していない
建学の精神や経営方針の不徹底。大学として目指す学生像が定まっていない。教職員に共通理念がないため、教職員によって教育方針や判断基準が違う。

これらの問題の解決方法を模索するに当たり、本グループでは各自の経験から学生に学士力をはじめとした社会に必要な能力を身につけさせるには、学生の主体性を向上させることが最も重要であると考えた。そして、その活動を大学が行うために ICT はどのような支援ができるかについて討議した。

2. 提案

2.1. 提案の概要

討議の結果、本グループは全学的な学生支援システムの構築を提案する。

本システムは従来各部署が個別に管理・運営していた学生支援システムのインターフェースを統合し、すべての学生や教職員が一つのインターフェースから様々な分野の情報にアクセスできるよう、ポータルを一元化するものである。

本システムの学生向けポータルは、主な特徴として下記の機能を持つ。

- ① 総合ポータル
教務系、就職系、学務系、通達系などの大学生活に必要な各種情報や機能へのアクセスを一カ所にまとめる。インターフェースの構成は mixi や Yahoo!Japan などをイメージしている。
- ② オーダーメイドの情報提供
Amazon のような趣向分析システムの実装や学生に適宜興味ある分野を登録してもらうことにより、本人に役立ちそうな情報を自動的に提供する。
- ③ OB/OG 参加のコミュニケーションツール
SNS や Yahoo!知恵袋のような Q&A 機能を実装することにより、学生の様々な疑問や不安に対応すると共に、卒業生とのコミュニケーションをとりやすくする。

そして教職員向けポータルには下記のような特徴がある。

- ① 学生のあらゆる情報に一カ所からアクセスできる
- ② 他部署・教職員間での学生情報の共有と活用
- ③ 学生のシステム利用傾向を監視し、異常感知時にアラートで通知する

2.2. 主体性向上に関する効果

本システムの導入により、学生の主体性向上に関して、学生がやりたいことや好きなことを見つけるきっかけ作りの一助となることを見込んでいる。本システムを導入することにより、学生は履修確認などの際に情報を目にするようになり、様々な情報に遭遇する機会が増えることは確実である。本システムを学生支援に活用することで、学生の自己理解や就学・就業意識の向上を効果的に行えるはずである。

また、教職員は問題ある学生の早期発見と多角的対応が可能になるほか、収集されたデータによる傾向分析などが行えるようになる。

2.3. 効果測定

効果測定方法としては、システムの利用履歴の分析や利用者の満足度調査、卒業生に対する在学生支援同窓スタッフへの協力状況、在学生への各種調査、教職員による相互評価などを実施することなどを想定している。

2.4. 副次的効果

本システム導入による副次的効果として、学内システム利用度の向上や IT リテラシの向上、部署間の情報共有による業務改善、目指すべき学生像の共有、教職員の協働、卒業生のつなぎ止め、保護者の評価向上、大学ブランドの向上などが見込まれる。

3. 導入の課題

本システムは技術的には難しい点は特になく、すでに導入している大学も見受けられる。よって課題としては、導入および運用に関する組織的、制度的な部分が主になると考える。